

モデルプログラム I-3 日本語指導の計画と実施 —基礎日本語の授業設計—

ねらい	初期段階の日本語指導として実施する「日本語基礎」プログラムの目的や学習内容、授業の設計方法を理解し、指導計画を立てて「基礎日本語」の授業を実践できるようになる。
対象	<input type="checkbox"/> 教師を目指す学生(教員養成課程他) <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input type="checkbox"/> 現職一般教員 <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員/母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒等教育の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1年目 <input checked="" type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 捉える力(子どもの実態把握) <input type="checkbox"/> 捉える力(社会的背景の理解) <input checked="" type="checkbox"/> 育む力(日本語・教科の力の育成) <input type="checkbox"/> 育む力(異文化間能力の涵養) <input type="checkbox"/> つなぐ力(学校作り) <input type="checkbox"/> つなぐ力(地域作り) <input type="checkbox"/> 変える/変わる力(多文化共生社会の実現) <input checked="" type="checkbox"/> 変える/変わる力(教師としての成長)
主な内容	I 日本語指導の計画と実施 H 子どもの日本語教育の理論と方法
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input checked="" type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	120分
流れ(・項目)	活動(◇活動の工夫)
1. 日本語プログラム「基礎日本語」の内容・学習内容を確認する。(15分) ・日本語基礎プログラム(1)	1. 日本語指導における「基礎日本語」の指導目的、内容について、文部科学省の「外国人児童生徒受入れの手引き」等を参考に確認する。 ・目的：日本語の音声、文字・表記、文型に関する基礎的な知識と技能を身につけ、学校生活の各場面で運用できる力を身につける。 ・学習内容：文字ーひらがな・かたかな・漢字 語彙・表現ー身近にある事物、日常生活に必要な事柄、興味関心の対象、学校生活に関する事柄 文型ー名詞文、動詞文、形容詞文、動詞の活用を伴う ・留意点：身近で具体的な事物や事柄を表わす語彙・表現、文型から、抽象的・複雑な内容を表わすものへと段階的に学べるようにする。ただし、日常生活で身につけた語彙・表現はスキップしてもよい。子どもたちの生活や学習に関連づけて運用する練習活動を組み入れる。
2. 文型の授業を設計するために、取り扱う文型を選定する。(20分) ・日本語のコース設計の手順(H) ・外国語としての日本語(G)	2. 文型の授業を設計することを知り、対象児童生徒を想定して、取り扱う文型を選定する。 1) グループで「受入れの手引き」(p.29)や子ども向けの文型を中心とした教材を参照して、基礎日本語として指導する文型項目(表現)を選ぶ。 ◇対象児童生徒を想定し、その日本語の力(文字・表記、会話の力、学習済みの文型)を設定して、指導する文型を選ぶようする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 例 対象：来日3ヶ月の中学2年生 文型：私は友達に会いたいです。 </div> 2) 目標を設定する。 取り扱う文型を使って行動として何ができるようになるかを目標とし、「～ができる」という表現で設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 例 願望表現「～たいです」を使って、休みの日になにがしたいかを会話することができる。 </div> 3) どんな場面で使えるようになってほしいかを考えて、例文をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 例 ・私は、夜、テニスのゲームを見たいです。 ・私は、友達とテニスをしたいです。 ・私は、来週、(地名)に行きたいです。 </div>

<p>3. 文型指導の授業展開を考える。(45分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語指導の学習指導案の作成(I) 学習活動(H) 教材教具の利用と作成(H) 	<p>3. 以下の展開(「受入れの手引き」p.30参照)で、授業の活動展開、利用する教材・教具を考える(学習指導案を作成し、模造紙に書き入れ、発表できるようにする)。</p> <p>・・・・・・・・・・＜文型指導の授業展開＞・・・・・・・・・・</p> <p>導入：文型の意味が理解できるよう場面を設定して、例文を提示する。 (新しい語彙を使う例文の場合は、先に語彙を教える)</p> <p>練習：練習1 口頭でリピートや一部分を入れ替える練習を繰り返し、聞いてわかる、正しく言えるようにする。</p> <p>練習2 対象児童生徒が会話やゲーム、タスク等の活動で、文型を使う練習をし、場面に応じて運用できるようにする。</p> <p>まとめ：短文をつくったり、会話の一部を書き入れたりして、学んだ文型を確認する。</p> <p>・・・・・・・・・・</p> <p>指導計画案(授業展開部分)</p> <p>例 中学2年生 滞日2ヶ月 「私はテニスをしたいです」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>導入：スポーツの絵カードを示して、 「私は、テニスが好きです。今日の夜、テレビでウインブルドンのゲームがあります。私は、テニスのゲームを見たいです。」と聞かせ、「見ます」→「見+たいです」と板書</p> <p>練習1：リピート練習 準備した例文を繰り返し発話練習をする 代入練習 私は()を見たいです/したいです。 私は()と()をしたいです。 私は()に行きたいです/会いたいです。</p> <p>QA 練習 あなたは、何を見たいですか/したいですか。 あなたは、だれに会いたいですか あなたは、どこに行きたいですか?</p> <p>練習2：スポーツ等の対象生徒が行いたい活動の絵カードを示し、友達の名前を告げて、活動カードを3枚選ばせて次のようなやりとりの練習をする。</p> <p>A：日曜日、〇〇さんと遊びます。何をしたいですか。 B：私は、〇〇さんと〇〇に行きたいです。それから、～と～をしたいです。</p> <p>まとめ 練習2で発話したことを、書いて確認する。</p> </div>
<p>4. 設計した授業について共有する。(20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返り(I) <p>5. 振り返る。(20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語教育に関わる専門性(N) 	<p>4. 作成した授業計画をグループ間で共有する。</p> <p>1) 2つのグループが組んで、作成した授業計画について紹介し合う。 他グループの指導計画について、参考になった点、疑問点などをメモする。</p> <p>2) 授業計画について意見交換をする。</p> <p>5. 基礎日本語プログラムの「文型指導」について、気づいたことを話し合う。 ◇これまでの指導、経験の振り返りともに考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自身が実施してきた授業(受けてきた授業)を振り返り、今回の授業設計の経験を通して気づいたことについて意見交換をする。 担当者の場合には、今後、授業をどのように改善したいか話し合う。
<p>備考</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画を立てる時間を確保できない場合は(60分程度で実施)、2、3の活動は、講師から具体例を示して、簡単に話し合う活動に変更する。 更に時間をとれるようであれば、指導計画案に基づいて模擬授業を実施する。